

ARIBからの
お知らせ

次世代無線通信技術に関する新しい取組み体制について

現在、IMT-2000（第3世代移動通信システム）の高度化とその後継システム（第4世代移動通信システム）に関する国際標準化の取組が国際電気通信連合（ITU）等において進展しており、2007年に開催される世界無線通信会議(WRC-07)における当該システムの周波数の審議に向け、活発な議論が行われています。2005年11月のITU-R SG8会合において、IMT-2000の後継システムの名称を「IMT-Advanced」とする決議案が採択されたところです。

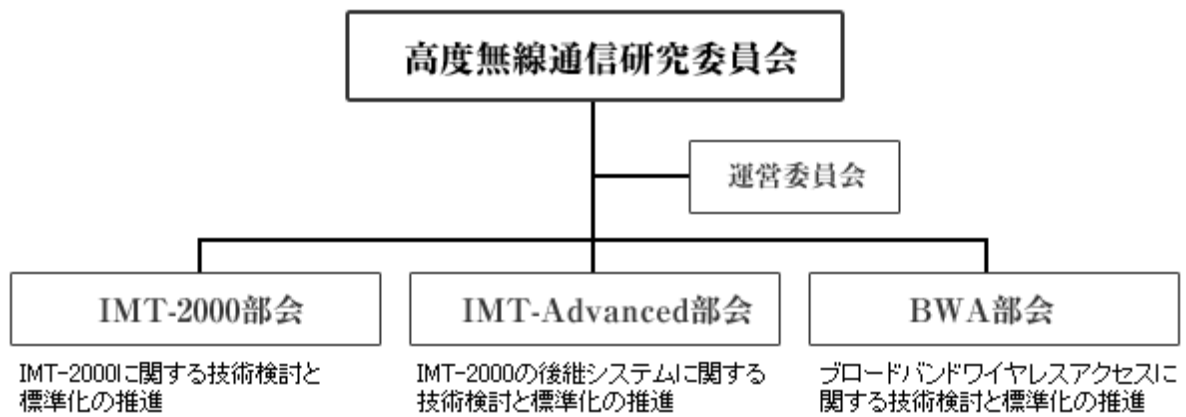
また、国内外において、WiMAX等のブロードバンドワイヤレスアクセス（BWA）システムに対する取組が活発化するとともに、総務省の「ワイヤレスブロードバンド推進研究会」の報告（2005年12月）の中で、「民間標準化団体等において、標準化や実用化に向けた組織的な取組の進展を期待」と提言されております。

このような状況を踏まえ、社団法人電波産業会（ARIB：会長 金杉明信）は、今般、既設の「IMT-2000研究委員会」を全面改組し、IMT-Advanced、BWA等の次世代無線通信技術に関する調査研究、標準化、他の標準化機関との連携等を専門的に扱う組織として、また、当会の会員のみならず、会員以外の企業等も参加可能な組織として、「高度無線通信研究委員会」を設置することといたしました。

平成18年2月23日（木）に開催された当会の第21回通常総会において、本研究委員会の設置が正式に決定されましたので、お知らせいたします。

<高度無線通信研究委員会の概要>

- 任務 国内外の関係機関と連携を図りつつ、高度な無線通信システムに関する技術的検討を行うとともに、その国際的な標準化活動に寄与する。
- 設置日 平成18年4月1日
- 構成



連絡先 社団法人電波産業会 研究開発本部 白石、田中、谷部

TEL 03-5510-8594

FAX 03-3592-1103

「第4世代移動通信システム (IMT-Advanced) ワークショップ」のご案内

下記の日程で、Wireless Communications Week at YRP が開催されますので、ご案内いたします。29日には、ユビキタスネット社会においてコアシステムになると考えられている第4世代移動通信システム (IMT-Advanced*) について国際的な意見交換を行う「第4世代移動通信システムワークショップ」を、総務省の主催、当会、mITF、NICT等の共催で開催いたします。会員の皆様には、ふるってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、詳細は <http://www.wcw2006.jp/> に掲載予定です。

* IMT-Advanced : 平成17年11月にITU-R SG8会合で採択された「IMT-2000の後継システム」の名称 (案)

Wireless Communications Week at YRP

2006年3月28日(火)、29日(水)、30日(木) 横須賀リサーチパーク(YRP)

■参加費 無料 (事前登録制)

■参加申込 <http://www.wcw2006.jp/>



住所 神奈川県横須賀市光の丘3-4

アクセス

- 京浜急行線をご利用の場合
「品川駅」から快特利用で「YRP 野比」下車、駅よりバス乗場「1番」より乗車「YRP センター」下車 (所要時間約80分)
- お車でのお越しはご遠慮下さい。

NICT新世代移動通信シンポジウム

NICT New Generation Mobile Communications Symposium

■日時 3月28日(火) 10:00~17:30

- 主催 独立行政法人 情報通信研究機構(NICT)
- 後援 総務省／YRP研究開発推進協会
- 概要 新世代モバイル研究開発プロジェクト及び委託研究開発プロジェクトの成果発表／展示・デモ(3/28、29)
- 定員 250名 (定員になり次第締切)

第4世代移動通信システムワークショップ

IMT-Advanced Workshop

- 日時 3月29日(水)10:00～17:30
- 主催 総務省
- 共催 独立行政法人 情報通信研究機構(NICT)／社団法人 電波産業会(ARIB)／モバイルITフォーラム(mITF)／YRP研究開発推進協会／日・中ICT技術フォーラム
- 概要 日本、中国、韓国、欧州の政府関係者、研究者による講演／YRP内のテクニカルツアー
- 定員 250名 (定員になり次第締切) ※講演は英語で行われます。

MOCCA－WWI移動通信システムワークショップ

MOCCA-WWI Workshop on Future Mobile Communication Systems

- 日時 3月30日(木)10:00～17:30
- 主催 MOCCA
- 後援 独立行政法人 情報通信研究機構(NICT)／YRP研究開発推進協会
- 概要 欧州委員会が推進する次世代移動通信システム研究開発プロジェクトの成果報告
- 定員 250名 (定員になり次第締切) ※講演は英語で行われます。

(MOCCA : The Mobile Cooperation and Coordination Action／WWI : Wireless World Initiative)

第61回規格会議開催のお知らせ

下記のとおり第61回規格会議を開催いたします。規格会議委員の皆様のご出席をお願いいたします。

- 1 日時 平成18年3月14日 (火) 午前10時から12時まで
- 2 場所 東海大学校友会館「望星の間」(霞が関ビル33階)
東京都千代田区霞が関3-2-5

なお、議案はARIBホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) の「お知らせ」に2月28日 (火) 頃に掲載しますのでご参照ください。

第115回業務委員会が開催される

第118回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成18年2月22日（水）午後2時から

2 場所 当会 第2会議室

3 議事概要

(1) 事務局から次の事項について説明があった。

ア UWB無線アクセス委員会報告（案）

イ 情報通信審議会における高速電力線搬送通信設備に係る許容値及び測定法の審議開始

ウ 社団法人電波産業会 高度無線通信研究委員会規程（案）

エ 社団法人電波産業会 平成18年度事業スケジュール

(2) 次回の委員会は、平成18年4月26日（水）午後2時から開催することになった。

電気通信・放送
行政の動き

電波資源の拡大に資する新たな研究開発課題の提案募集 (2月16日付総務省報道発表から)

総務省は、「電波資源拡大のための研究開発」において、平成19年度から新たに実施する研究開発課題の選定に反映させるため、提案募集を行うことを発表しましたので、以下にその概要を紹介いたします。

提案方法等の詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060216_1.html>をご参照ください。

1 背景・目的

近年、携帯電話や無線LANに代表されるように電波利用は質的にも量的にも著しく拡大しており、電波に対する国民のニーズは情報通信分野の技術革新を背景にますます広帯域化・多様化する傾向にあります。そして、今後のユビキタスネット社会の実現に向けて、広帯域の新たな電波利用システムの導入が想定され、電波資源の不足は一層深刻化するものと考えられます。

このため、総務省では、電波の利用状況調査に基づく既存利用の周波数の再編を迅速に進めるとともに、電波資源のより一層の拡大を可能とする技術の研究開発を大学・民間機関等に委託して実施する「電波資源拡大のための研究開発」を本年度から開始しています。今般、電波資源の拡大に資する新たな研究開発課題の提案を広く求め、平成19年度から新たに実施する案件の選定に反映させることを目的として、提案募集を行います。

2 募集期間

平成18年2月16日（木）から平成18年3月20日（月）

欧州電気通信 の動き

仏、865-868MHz帯をICタグ（RFID）に使用解禁へ 【産業省コミュニケ, 2006/02/09】

仏経済財政産業省は、2月9日、RFIDの使用周波数に関して、次のコミュニケを発表。

ミッシェル・アリヨ=マリ国防相とフランソワ・ロース仏産業相は、RFIDによる産業・経済上の有益さに鑑み、仏企業が同技術を開発できるよう望んでおり、国防上の必要を考慮しつつ、同技術に関する制約を除くことを検討している。

このため、両相は、仏軍周波数局と企業総局に対し、ARCEP（仏電子通信・郵便規制機関）との協議開始を求め、近く、この協議の場において、仏国内では865-868MHz帯において出力最大2ワットでのRFIDリーダーの設置が解禁されることになるはずである（ただし、このリーダーの使用は、一部の軍事施設周辺では使用不可）。

なお、正式なRFIDの使用解禁については、2006年3月に予定されている仏周波数庁の会合を経て、ARCEPが2006年6月に最終的な決定を下すことになる。

編集後記



寒い中、オホーツクの流氷見学を主目的にツアーを利用して北海道に行ってきました。目玉は、(1)オホーツクの流氷(2)冬の摩周湖(3)旭山動物園（ペンギンの散歩と北極グマ）です。連れ合



いは流氷が良かったといいますが、私は雪景色の摩周湖でした。夏の摩周湖に負けず、湖面が凍り静寂の中の雪化粧の摩周湖は秀逸でした。なお、流氷に興味のある方には、知床に行くと流氷の上を散歩させてくれるところがあるそうです。今回の旅行で意外なのは北海道の暖かさ。建物の中、車の中、雪国ならではの暖房完備。防寒グッズで完全装備の準備をしましたが拍子抜け。驚いたのは、いまさらながらのアジアパワー（韓国・台湾・中国からの観光者）。冬の北海道の果てまでの大量の旅行者。ここには日本嫌いの姿はなく観光立国を目指す日本としてはありがたいことですが、ブロードバンド普及率、電子・半



導体業界の勢い、ITU統計のデータ完備状況（日本に比べ韓国のデータはもれなく整備されている）、それにトリノ五輪の獲得メダル数等、日ご



ろから勢いを感じますが、改めて成長盛りの活力に驚かされました。（K.K）